

小谷さんは約15年前から兼業農家として農業に携わつてこられました。当初は本業の仕事と両立しながら水稻を中心に作業をされていましたが、年々耕作面積が広がる中で、より本格的に農業に取り組みたいという思いが強くなり、2年前に会社を退職し、専業農家として新たな一步を踏み出されました。

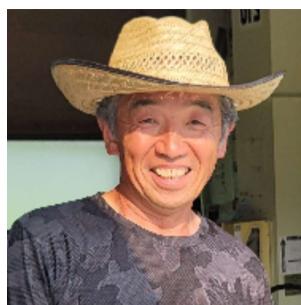
その後、認定農業者として認定を受け、補助金制度も活用しながら農業機械や設備を充実させてこられました。現在は水稻7ha、ピーマンを中心栽培されてお

また 小谷さんは 農閑期の有効活用を考え、昨年からビー マン栽培にも取り組まれています。ビー マンは 6月から 11月までの長期間にわたつて収穫できる作物で、稲刈りの時期と重なることがあります。が、計画的に作業を進めながら全量を農協へ出荷されています。新たな作物への挑戦にも意欲的で、経

り地域の農業を支える存在となっています。

ご家族は、お母様を含めた4人家族で、普段は小谷さんお一人で農作業を担つておられます。が、休日などは御子息もお手伝いされるなど、家族みんなで協力しながら営農されています。

主な機械設備は、トラクター1台、田植機1台、コンバイン1台、乾燥機3台、動力噴霧器などで、効率的な作業ができる体制が整っています。



認定農業者

認定新規就農者の紹介

認定農業者

あれ、農業委員会だより

発行
朝来市農業委員会
令和7年9月
TEL 079-672-2833
(直通)

森田さんは東京でフランス料理店店長として勤務されたのち、肥料メーカーに勤めておられました。その後お父様の年齢や体調のこともあり帰郷し就農されました。 令和7年5月に「森田農場株式会社」を設立され、水稻 $\frac{1}{4}$ ha・芝 $\frac{1}{4}$ haを栽培されています。また他の農業者と連携して枝豆やねぎをはじめ色々な作物にチャレンジされています。 規模拡大にも勢力的で水稻ではドローン直播・DDSRなどの技術を活用し省力化・增收・品質向上を図りながら、ひとまず20haを目指し芝も拡大していくたいとのことです。 また緑化資材の販売代理店・耕蓄連携として神戸の大手畜産業者と提携し良質な堆肥の販売・散布事業にも取り組まれ

ており、特に「耕蓄連携」には大きな将来性を感じていると語っていました。現在は舞鶴の子供食堂にお米などの食材を提供されていました。身内に交通事故で寝たきりになつた方がいたことから社会貢献に熱意を持つおられ、フードバンクNPOの設立を目指し生活困窮者や福祉施設の一助になりたいと話されました。農福連携事業にも取り組まれておりサツマイモの洗浄やヒゲ取りなどを委託されています。



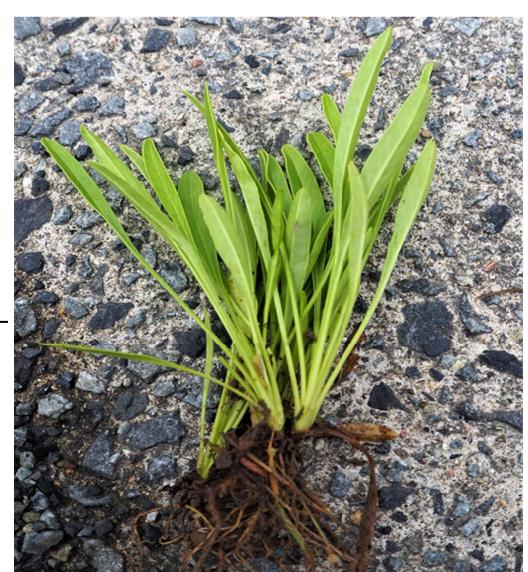
木木きんケイギクの特徴（防府市提供）

葉はへら状で3枚に分裂するものとしないものがあり、束状に直立に近い形で細かい毛があるものが多い。写真を参考に花の中心部分まで黄色く、花びらの先はギザギザしている。葉っぱは地面から集まつて立つていて、断り切らない場合は

才オキンケイギク
かどうかの同定・駆
除についての相談・
情報提供は、朝来市
市民課環境推進室
(☎672-6120) が協力
していただけます。

うのがいいです。駆除の方法は宿根性なので根から抜き取るのが一番ですが花が咲く前に上部を刈り取ることで種を作らせないようになります。ことで減らすことができ拡散も防げます。

また、特定外来生物ですので生体での移動は禁止されていますので刈り取つたり抜いたものはビニール袋などに入れ種が落ちないようにしてその場に置き、完全に枯れてから処分します。



オオキンケイギクの葉



店舗外觀

めぐみの郷は、平成21年、G7グループ創業者である故木下守会長の「生産者と消費者をもつと近づけたい」という強い想いのもと設立されました。木下会長は長年、流通業界に携わる中で、農家の皆さんのが心を込めて育てた新鮮な農産物が、市場取引や大規模流通の中で本来の価値を失つてしまふ現状に強い課題意識を持たれていました。市場では「見た目」や「規格」によつて評価が決まり、味や品質、生産者の努力や思ひが十分に伝わ

和田山店 南光 昭二様

らないことも多くあります。

伝わりません。しかし、めぐみの郷の直売所では、生産者の名前や生産地、生産方法などをきちんと表示し、生産者自身が直接持ち込んだ農産物をその日のうちに販売しています。この仕組みは消費者にとって安心感や信頼につながるだけでなく、価格設定や商品の入れ替えを柔軟に行えるため、消費者の声をすぐに生産者へフィードバックできるメリットもあります。その結果、多品種少量生産やよ

験なども積極的に実施し、小規模ながらも強く、持続可能な農業経営モデルを地域に根づかせようと日々取り組んでいます。現在、めぐみの郷は関西を中心に19店舗を展開しています。その中でも和田山店は、平成23年5月にオープンし、北近畿地域の農産物を中心に取り扱っています。特に「岩津ねぎ」をはじめとした地域特産品を都市部の消費者へ届ける役割が大きく、生産者の販



店舗外観



特商月刊一七一

全な状態で消費者のもとへ届けています。冷蔵設備が整つた配送網は、規模が大きくなり直売所チェーンとしては珍しい特徴であり、それだけ消費者への安心感や満足度を高めることにつながっています。加えて、めぐみの郷では「フードロス削減」にも積極的に取り組んでいます。日本国内ではフードロス削減に取り組んでいます。

野菜や冷凍野菜、漬物、ジャムなどへの加工がその一例です。また、地域の学校給食や福祉施設と連携し、食材として有効活用することで廃棄を減らす取り組みも進めています。こうした活動は、単なる利益追求ではなく、地域全体の豊かさや持続可能な社会づくりに貢献するものと

路拡大や収益向上、地域農業の振興に大きく貢献しています。和田山店では、単なる販売の場にとどまらず、地域コミュニティの交流拠点としても機能しております。地域行事やイベントへの協力も積極的に行っております。配達体制についても、毎朝9時頃に冷蔵トラックで集荷し、夏場の高温時期でも品質を落とすことなく、新鮮で安心・安

ドロスが大きな社会問題として注目されていますが、特に農業分野では「規格外品」の扱いが課題となっています。形状やサイズが基準を満たさないだけで、品質や味に問題のない農産物が市場から外されてしまう現実がちる中、めぐみの郷ではそうした規格外品を加工品に活用したり、ネット販売や直市場での特価販売を行つたりしていきま

皆さま一人ひとりのご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。消費者の方、そして子どもたちの笑顔のために、私は日々努力を重ねてまいります。今後とも、めぐみの郷の活動に引き続きご注目いただき、温かいご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

子どもたちが地域の農産物を食べることで、生産者の思いや地域の食文化に触れ、将来を担う世代への農業や環境への関心を育てることも期待されています。めぐみの郷は、これからも生産者と消費者をつなぐ架け橋として、新鮮でおいしい農産物を届け続けます。そして、フレックス削減や地域貢献を通じて、持続可能な農業と豊かな社会づくりを目指します。

位置づけています。近年ではさらに一歩進め、「こども食堂」への食材提供もスタートしました。地域の子どもたちが安心して食事を楽しめる場を支援し、教育や地域交流こもつなげる



農業を守り、次世代へつないでいくためには、生産者が適正な価格で販売できることが何よりも大切だと考えます。委員会としても、今後の農業政策や販売方法について、地域の皆さんや関係機関の皆さんと意見交換を重ねながら、より良い形を目指して取り組んでいきたいと考えております。今後ともご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願ひいたします。

せん
しかしながら、報道などでは消費者米価、つまり私たちが店頭で購入する際の価格ばかりが取り上げられる傾向があります。本来、米価はまず生産者米価が基礎となり、その上で流通や小売を経て消費者価格が決まっていくものだと考えています。

稻刈りも最盛期を迎えた、新米の販売が本格的に始まっていることだと思います。この秋、「令和の米騒動」とも呼ばれる一連の動きも、ようやく一区切りがついていくかもしれません。